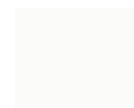


2024年度事業計画

北海道エアポート株式会社



取組方針及び目標値

■ 取組方針

当社は、2023年11月27日付で、2030年を目標とした「HAP2030ビジョン」を策定しました。当ビジョンを共通理念として、全社員の挑戦と活躍、コミュニケーションの活性化を促し、北方圏の空港運営のリーディングカンパニーとなることで、北海道を元気にし、未来に貢献する会社となることを目指します。2024年度事業計画では、本年度を2030ビジョン実現に向けた新たなスタートと位置づけ、コロナ前の旅客水準への回復及び営業利益の黒字化を目指すために、以下、取り組み方針を掲げます。

- 7空港バンドリングメリットの具体化を進め、全社員の信頼に基づくチームワーク連携をもたらず組織運営と人材育成を基盤とし、安全・安心と信頼性の高みを追求し、高い品質と効率性を両立させた北方圏随一の空港運営を目指します。
- 北海道における航空ネットワークの充実及び二次交通整備・観光開発へ取り組むとともに、関係者との緊密な連携のもと各空港における十分な受け入れ体制を構築し、航空需要の最大化に努めます。
- 将来的な需要の拡大を見据え、イノベーションの積極的な活用、サステナブルな事業運営体制構築を進め、お客様に喜ばれる魅力ある空港の実現に向けた各種施策を、投資対効果を踏まえながら着実に実行します。

■ 旅客数等の目標値（カッコ内はコロナ前(2019暦年比)回復率)

		新千歳	稚内	釧路	函館	旭川	帯広	女満別	7空港計
旅客数 (万人)	国内線	2,091.9	18.7	76.6	169.0	114.3	68.0	81.6	2,620.3万人 (100%)
	国際線	388.2	0.1	0.2	20.9	9.4	0.2	0.2	419.2万人 (103%)
	合計	2,480.1	18.8	76.8	190.0	123.7	68.2	81.8	3,039.5万人 (101%)
貨物量(百t)		1,953	1	16	39	39	13	10	2,071百t

■ 損益計画

	2024年度
営業収益 ※1	558億円
営業費用	563億円
営業損益	▲6億円
EBITDA ※2	201億円

※1 新収益認識基準を適用（旧基準：1,079億円）

※2 営業損益に減価償却費を足し戻した経営指標

安定した事業実施体制の確立、安全・安心かつ効率的な空港運営の推進

■ 空港運営事業・ビル施設事業等における取組

- ・ 人材育成、HOC支援体制高度化、保安検査実施主体変更への対応等、安全安心な空港運営体制の強化に向けた取組の推進
- ・ 需要取り込みに向けたグランドハンドリング・保安検査等の応需能力強化、受入環境整備
- ・ 7空港一体運営によるバンドリングメリットを活かした新たな収益拡大施策・費用削減施策の推進
- ・ 全社的なDX推進に向けた構想設計、脱炭素における目標達成に向けた実施計画策定

■ 地域との連携・共生

- ・ 航空需要の喚起や空港における賑わい創出、交流人口・関係人口の増大、二次交通の最適化に向けた地域と連携した取組継続
- ・ 大型産業集積への対応、多様な企業・自治体との連携を通じた新たな価値創出
- ・ 空港におけるSDGs取組の推進及びサステナブルな事業運営体制構築への着手

航空・観光需要の回復に向けた取組み

■ 航空ネットワーク拡大

- ・ 7空港一体での航空営業、着陸料等の割引制度・インセンティブを活用したマーケティング戦略の推進
- ・ 新規就航および早期復便・増便に向けたエアラインへの誘致活動・受入環境整備に向けた取組の継続
 - ▶ ターゲット路線の就航サポートとなるプロモーション等エアラインとの連携施策の実施
 - ▶ 新千歳、函館および旭川における国際線定期便の増便に加え、7空港全てで国際線チャーター便受入（将来の定期便化の可能性を見据えた誘致）を想定
- ・ ソーシャルメディア等の活用による海外向け北海道観光地のPRと共に、北海道製品の販売および輸出促進
- ・ 新千歳空港ビジネスジェット専用ターミナルをフックとした富裕層の来道需要取り込み並びに道内周遊観光の推進

■ 広域観光の振興

- ・ 観光需要の受皿として北海道エリアの競争優位性を高めるべく、北海道、北海道観光振興機構、北海道運輸局とターゲットとなる顧客層を共有し、協調と役割分担による効率的な北海道観光プロモーションの展開
- ・ 個人旅行需要の拡大に応じた観光商品造成やSNS等デジタルメディアを活用し、重要顧客（若年世代等）へのプロモーションを実施する等、デジタルマーケティング施策の推進・強化
- ・ 高付加価値化やアドベンチャートラベル・サステナブルツーリズム等の新しい旅行ニーズへ対応した観光資源の洗い出し・磨き上げや、サービス提供等、地域に根差した周遊観光について地域と共に推進

目標達成に向けた主な取組②

空港施設の利便性・安全性向上に向けた施策の推進

- 安全・安心の空港運営に向けた計画的で着実な更新投資の実施
- 利便性向上や空港処理能力向上に向けた拡張投資の検討・実施
- 将来の収益基盤の確立に向けた投資対効果を踏まえた各種新規投資の検討・実施

■ 7 空港共通

- ・ 安全・安心な空港運営に資する滑走路、誘導路、航空灯火等の更新に係る設計及び工事
- ・ 脱炭素化推進計画に基づく各空港のカーボンニュートラル化に向けた各種施策の検討・実施
- ・ 航空・空港関連従業員の職場環境改善に向けた各種投資（休憩所、保育所設置等）の検討・実施

■ 新千歳空港

- ・ 国内線施設等改修に係る設計の継続及び工事（ラウンジ改修、商業改修工事等含む）
- ・ 駐車場拡張に係る設計の継続及び工事

■ 稚内空港

- ・ 国内線施設改修に係る設計の継続
- ・ 老朽化設備改修工事

■ 釧路空港

- ・ 国内線施設改修に係る設計の継続及び工事（商業改修工事含む）

■ 函館空港

- ・ 国内線施設改修に係る設計の継続及び工事（特定天井・商業改修工事含む）

■ 旭川空港

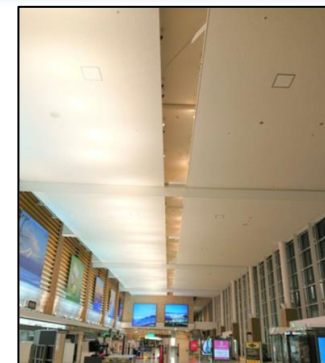
- ・ 国内線施設改修に係る設計の継続
- ・ 駐車場拡張に係る工事

■ 帯広空港

- ・ 国内線施設改修に係る設計の継続
- ・ 駐車場拡張に係る工事（立体駐車場新設含む）

■ 女満別空港

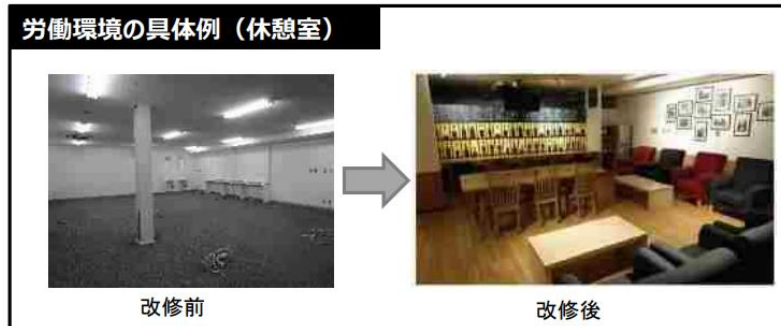
- ・ 国内線施設改修に係る設計の継続



▲函館空港／特定天井改修工事 参考写真



▲旭川空港／誘導路改良工事 参考写真



労働環境の具体例（休憩室）

改修前

改修後

▲「持続的な発展に向けた空港業務のあり方検討会」
中間とりまとめ_P.46/55より抜粋

投資計画（2024年度）

■ 2024年度 設備投資計画（億円）

		活性化投資	機能維持投資	合計	主な投資内容
投資額合計		43.7億	151.5億	195.1億	
本社	エアサイド	3.6億	9.4億	13.0億	■活性化投資 新千歳空港：国内線施設等改修に係る設計の継続及び工事、 駐車場拡張に係る設計の継続及び工事 稚内空港：国内線施設等改修に係る設計の継続、老朽化設備改修工事 釧路空港：国内線施設等改修に係る設計の継続及び工事（商業改修工事含む） 函館空港：国内線施設等改修に係る設計の継続及び工事（商業改修工事含む） 旭川空港：国内線施設等改修に係る設計の継続、駐車場拡張に係る工事 帯広空港：国内線施設等改修に係る設計の継続、駐車場拡張に係る工事 （立体駐車場新設含む） 女満別空港：国内線施設等改修に係る設計の継続 7空港全般：サイバーセキュリティ対策、HOC等 ■機能維持投資 エアサイド：空港基本施設、空港用地の維持管理・更新、車両更新等 ランドサイド：旅客ビル施設に関する修繕・更新、テナント関連工事等 航空・空港関連従業員関連投資、ラウンジ改修、商業改修工事等
	ランドサイド	0.0億	1.6億	1.6億	
新千歳 (含むCFF)	エアサイド	4.3億	32.8億	37.1億	
	ランドサイド	6.6億	81.4億	88.1億	
稚内	エアサイド	0.1億	0.1億	0.3億	
	ランドサイド	0.2億	0.0億	0.2億	
釧路	エアサイド	0.0億	3.2億	3.2億	
	ランドサイド	1.0億	0.3億	1.3億	
函館	エアサイド	0.5億	2.3億	2.8億	
	ランドサイド	5.8億	4.2億	10.0億	
旭川	エアサイド	0.7億	5.8億	6.6億	
	ランドサイド	1.0億	0.4億	1.4億	
帯広	エアサイド	18.2億	3.2億	21.4億	
	ランドサイド	0.6億	1.4億	2.1億	
女満別	エアサイド	0.0億	4.8億	4.8億	
	ランドサイド	1.0億	0.4億	1.4億	

【我々が目指すゴール】北海道を元気にし、未来に貢献する会社を実現します

【スローガン】ともに創る、北の空と大地の未来

【ビジョン】

◆ 7つの視点から、北方圏の空港運営のリーディングカンパニーを目指します

①安全安心

・安全安心と信頼性の高みを追求し、高い品質と効率性を両立させた北方圏随一の空港運営を目指す。

②7空港連携

・7空港バンドリングメリットの具体化を進め、7空港それぞれの特長を生かした北海道への人流の最大化を図る。

③お客様に喜ばれる空港

・航空ネットワークの充実、キャパシティの確保など顧客志向の追及により、お客様に喜ばれる空港を創る。

④地域との共生（二次交通・観光）

・二次交通整備・観光開発を関係者と連携して進め、マルチツーリズムゲートウェイの推進、大型産業集積への対応などを含め、北海道の玄関口として十分な受け入れ体制を構築する。

⑤イノベーション（DX・GX）

・イノベーションを積極的に活用して経営合理化、空港運営の効率化を推進する。

⑥サステナビリティ（SDGs）

・人と環境にやさしいサステナブルな事業運営体制を構築する。

⑦人と絆（多様性とチームワーク）

・多様な職員の挑戦と活躍を促し、一人一人の働く誇りと喜びを高め、全社員の信頼に基づくチームワーク連携をもたらす組織運営と人材育成に努める。